

# ROHM MUSIC FESTIVAL

ロームミュージックフェスティバル

## 2024

Rohm Music  
Foundation  
ロームミュージックファンデーション



2024.4/20<sup>土</sup>・21<sup>日</sup>  
ロームシアター京都

主催：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション  
共催：ローム株式会社  
後援：京都府、京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

## ごあいさつ

この度はローム ミュージック フェスティバル2024にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して豊かな文化を作ることを目的に様々な音楽文化支援活動を継続的に実施しています。

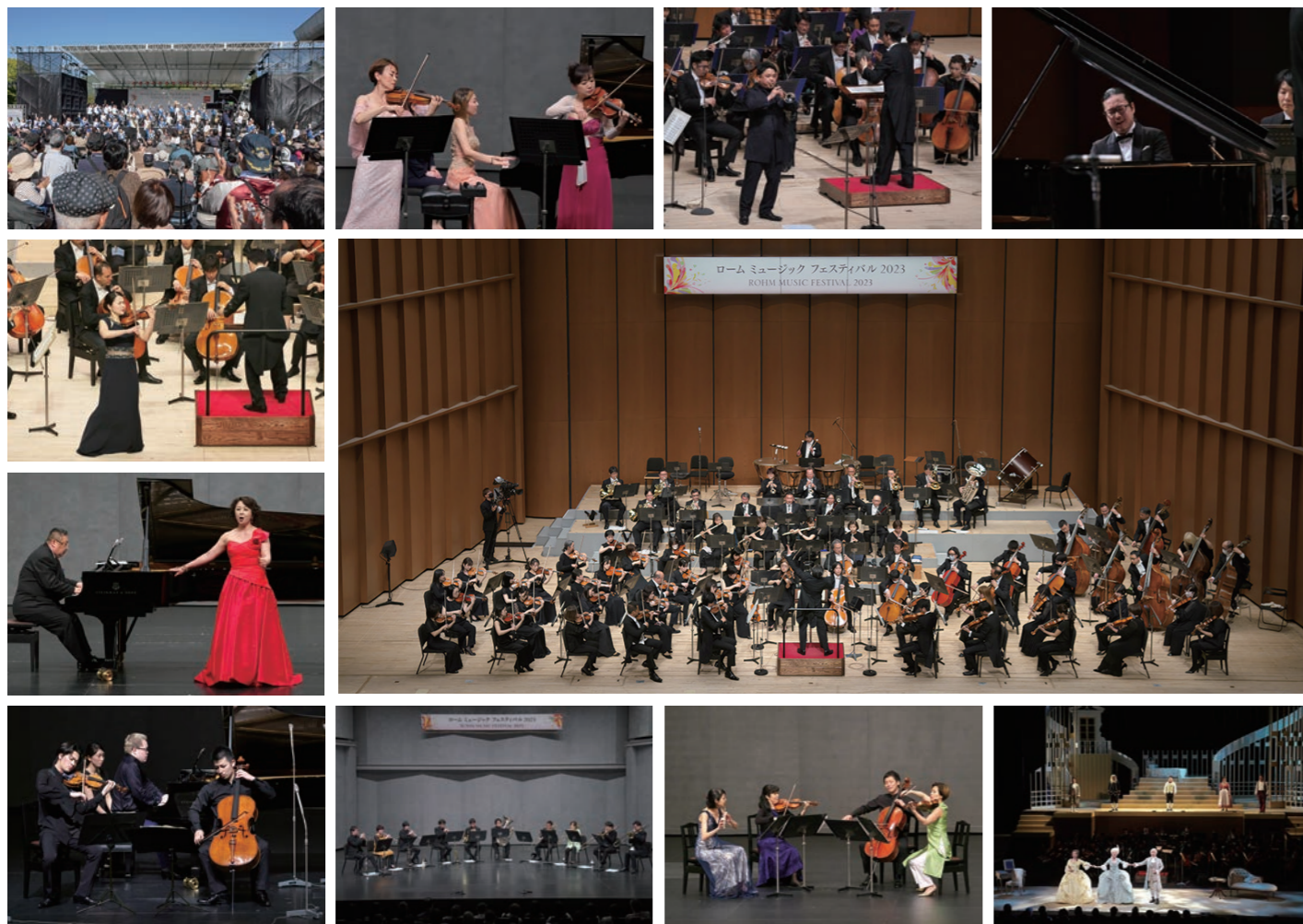
特に奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、音楽を学ぶ若い人たちを支援する事業に力を入れてきました。

そしてこのような事業を通じて関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の皆様は国内外で活躍されています。

このフェスティバルでは「ローム ミュージック フレンズ」という繋がりが生み出す、豪華共演をお届けします。

素晴らしい音楽家たちによる音楽との出会いをぜひお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション  
ローム株式会社



【過去のローム ミュージック フェスティバルより】 ©佐々木卓男 ©樋口航

## Schedule

4/20 [土]	11:30開演   サウスホール (10:45開場)   <b>リレー コンサート A</b>	4人の名手たちが贈る「四季」の祭典
	13:15開演   <b>ローム・スクエア</b> ローム・スクエアコンサート	京都市立近衛中学校 吹奏楽部
	14:15開演   <b>メインホール</b> (13:15開場)   <b>オーケストラ コンサート I</b>	バレエ音楽「くるみ割り人形」&「白鳥の湖」ハイライト
	15:30開演   <b>ローム・スクエア</b> ローム・スクエアコンサート	大阪桐蔭高等学校 吹奏楽部
4/21 [日]	16:30開演   サウスホール (15:45開場)   <b>リレー コンサート B</b>	神尾真由子ヴァイオリン名曲選 with 田村響
	12:00開演   <b>ローム・スクエア</b> ローム・スクエアコンサート	京都橘高等学校 吹奏楽部
	13:00開演   サウスホール (12:15開場)   <b>リレー コンサート C</b>	ブラームスと楽友ドヴォルザーク～室内楽の響き
4/21 [日]	14:45開演   <b>ローム・スクエア</b> ローム・スクエアコンサート	立命館高等学校 吹奏楽部
	16:00開演   <b>メインホール</b> (15:00開場)   <b>オーケストラ コンサート II</b>	ショスタコーヴィチの真骨頂!「ピアノ協奏曲」&「革命」

企画:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション  
シニアプロデューサー:善積 俊夫  
メインホール/サウスホール公演 構成:新井 鷗子 制作:株式会社1002 運営:otonowa  
オンライン ライブ/アーカイブ配信:カーテンコール ローム・スクエア制作:株式会社Ryu

ローム・スクエアコンサート(無料公演) ※天候によっては中止の場合がございます。



## リレー コンサート A 4人の名手たちが贈る「四季」の祭典

サウスホール 11:30開演 (13:00頃終演予定)

### A. ヴィヴァルディ／「四季」ヴァイオリン協奏曲集 “和声と創意の試み” Op.8 第1集

A. Vivaldi/The Four Seasons: Violin Concerto “Il cimento dell’armonia e dell’inventione” Op.8, No.1

#### 第1番 ホ長調 RV.269 「春」 独奏:弓 新

No.1 in E Major RV.269 “La primavera”

I アレグロ

II ラルゴ

III アレグロ

#### 第2番 ト短調 RV.315 「夏」 独奏:小林 美樹

No.2 in G Minor RV.315 “L’estate”

I アレグロ・ノン・モルト - アレグロ

II アダージョ - プレスト - アダージョ

III プレスト

#### 第3番 ヘ長調 RV.293 「秋」 独奏:黒川 侑

No.3 in F Major RV.293 “L’autunno”

I アレグロ

II アダージョ・モルト

III アレグロ

#### 第4番 ヘ短調 RV.297 「冬」 独奏:岡本 誠司

No.4 in F Minor RV.297 “L’inverno”

I アレグロ・ノン・モルト

II ラルゴ

III アレグロ

### ～休憩～

### A. ピアソラ (L.A. デシャトニコフ 編)／ブエノスアイレスの四季

A. Piazzolla (arr. L.A. Desyatnikov)/Las Cuatro Estaciones Porteñas

#### ブエノスアイレスの夏 独奏:小林 美樹

Verano Porteño

#### ブエノスアイレスの秋 独奏:黒川 侑

Otoño Porteño

#### ブエノスアイレスの冬 独奏:岡本 誠司

Invierno Porteño

#### ブエノスアイレスの春 独奏:弓 新

Primavera Porteña

白井 圭 [コンサートマスター]

青木 調/石原 悠企/神谷 未穂/

島田 真千子/西川 茉莉奈 (ヴァイオリン)

三浦 克之/吉田 有紀子/阪本 奈津子 (ヴィオラ)

門脇 大樹/唐沢 安岐奈/高橋 純子 (チェロ)

高橋 洋太/佐野 央子 (コントラバス)

越知 晴子 (チェンバロ)

A. ヴィヴァルディ (1678～1741)

「四季」ヴァイオリン協奏曲集

“和声と創意の試み” Op.8 第1集

国際的港湾都市ヴェネツィアでは船乗りや観光客が一夜の歓楽に興じた結果、遺棄される子どもが後を絶たなかった。そこで教会は古くから児童養護施設を付設してきた。司祭だったアントニオ・ヴィヴァルディは少女養育施設でヴァイオリンを教え、教え子たちのため各種協奏曲を作曲した。「四季」は合奏曲集“和声と創意の試み”Op.8第1集の冒頭の4曲。各曲は季節ごとの自然と人間の営みを歌いあげた14行詩を踏まえている。

#### 第1番 ホ長調 RV.269 「春」

第1楽章:アレグロ。春の訪れを告げる明るい全合奏から開始され、小鳥たちの歌と泉のせせらぎの描写を経て春雷と稲妻が表現される。

第2楽章:ラルゴ。けだるい春の田園風景。ヴァイオリンが木々の葉擦れの音を、断続的なヴィオラの音型が犬の遠吠えを模倣する。

第3楽章:アレグロ。春空のもと、シチリアーナ舞曲にのって羊飼いや牧場の乙女が踊る。

#### 第2番 ト短調 RV.315 「夏」

第1楽章:アレグロ・ノン・モルトーアレグロ。人も家畜もあえぐ炎天下、カッコウ、山鳩、ヒワの鳴き声が響いたあと北風が吹き荒れる。

第2楽章:アダージョープレストーアダージョ。家畜に群がるハエに悩まされ、嵐の到来を懸念する羊飼いの嘆きが表現される。

第3楽章:プレスト。羊飼いの不安は適中し、雷鳴が轟いて激しい嵐が到来する。

#### 第3番 ヘ長調 RV.293 「秋」

第1楽章:アレグロ。村人たちが収穫の祝宴を開いている。酔っ払いの千鳥足の描写のあと、中間部では酔った村人の眠りが描かれる。

第2楽章:アダージョ・モルト。弱音器をつけた弦合奏が静かな秋の眠りを表現する。

第3楽章:アレグロ。狩りの光景。重音奏法で角笛が模され、鉄砲の音、倒れる獲物、猟犬の声などが描写される。

#### 第4番 ヘ短調 RV.297 「冬」

第1楽章:アレグロ・ノン・モルト。寒さに歯の根があわずガチガチと鳴るさまを重音のトレモロが描写する。

第2楽章:ラルゴ。ピツィカートは戸外の冷たい雨の模倣。穏やかな旋律は暖炉の前の団欒を描く。

第3楽章:アレグロ。前半は氷上を行く人が滑って転倒するありさまや夏の猛暑への回顧。終わり近くの突然の柔和な旋律は春を先触れする南風。冬の北風の反撃のうちに曲を結ぶ。

A. ピアソラ (1921～1992)

ブエノスアイレスの四季／L.A. デシャトニコフ 編

アルゼンチン生まれのアストル・ピアソラは最初タンゴ演奏家として世に出たがクラシック音楽への夢も捨てきれず、パリへ留学して名教師ナディア・ブーランジェ女史に師事する。すると女史から、タンゴの道へ進むべきと助言され、帰国後、独自のタンゴを次々と発表していく。1965年、舞台劇「金の垂れ髪」の音楽を依頼された彼は初演前夜にどうにか4曲を生み出す。そのうちの1曲が〈ブエノスアイレスの夏〉だった。その後、彼は〈夏〉に続く四季4部作を構想して1969～1970年に〈秋〉〈冬〉〈春〉を書きあげた。〈夏〉から開始されるのは作曲順に沿ったためである。原曲はピアソラ自身の楽器であるバンドネオンに、ヴァイオリン、ピアノ、コントラバス、エレキギターを加えた編成の五重奏曲だが、本日はクレームルトとの協調関係で知られるロシアの作曲家L.A. デシャトニコフの弦楽オーケストラ版が演奏される。独奏ヴァイオリンが主役で、ヴィヴァルディの「四季」がコラージュされている。

〈ブエノスアイレスの夏〉

南半球に位置するブエノスアイレスは北半球とは季節が逆になり、夏が北半球の冬にあたる。寒い季節の曲だが、ヴィヴァルディ〈夏〉第1楽章の一節も聴くことができる。

〈ブエノスアイレスの秋〉

日本の春に相当する季節にふさわしい、はずんだ雰囲気1曲。

〈ブエノスアイレスの冬〉

冒頭はノスタルジックな序奏。ヴァイオリンのカデンツァを経た主部は次第に昂揚し、後半に他の作曲家の作品の断片が現れ、ヴィヴァルディの〈冬〉第2楽章が引用されて終わる。

〈ブエノスアイレスの春〉

急テンポの技巧的な曲。中間部は緩やかなテンポで甘美な楽想が歌われる。最後にヴィヴァルディの〈春〉の冒頭旋律が奏される。

[萩谷 由喜子]

白井 圭 [コンサートマスター]

青木 調/石原 悠企/神谷 未穂/

島田 真千子/西川 茉莉奈 (ヴァイオリン)

吉田 有紀子/三浦 克之/阪本 奈津子 (ヴィオラ)

門脇 大樹/唐沢 安岐奈/高橋 純子 (チェロ)

高橋 洋太/佐野 央子 (コントラバス)

越知 晴子 (チェンバロ)

## オーケストラ コンサート I バレエ音楽「くるみ割り人形」&「白鳥の湖」ハイライト

メインホール 14:15開演 (15:15頃終演予定※休憩なし)

P.I.チャイコフスキー  
P.I.Tchaikovsky

バレエ音楽「くるみ割り人形」ハイライト  
Ballet “The Nutcracker”

バレエ音楽「白鳥の湖」ハイライト  
Ballet “Swan Lake”

台本:新井鷗子の音楽劇台本シリーズ 「おはなシクラシック①」、「おはなシクラシック②」(アルテスパブリッシング出版)より

三ツ橋 敬子(指揮)

朝岡 聡(ナビゲーター)

東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)/コンサートマスター:近藤 薫

P.I.チャイコフスキー(1840～1893)

バレエ音楽「くるみ割り人形」

台本:新井鷗子の音楽劇台本シリーズ

「おはなシクラシック①」(アルテスパブリッシング出版)より

1891年、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキーはペテルブルクのマリンスキー劇場の依頼によりオペラ「イヨランタ」とバレエ「くるみ割り人形」に着手する。「くるみ割り人形」はE.T.A. ホフマンの原作をアレキサンドル・デュマが脚色した原案をもとに、振付師マリウス・ブティバが構成した2幕3場構成のバレエで、オペラ「イヨランタ」と共に1892年12月6日に初演された。クリスマスの夜、少女クララは王子に変身したくるみ割り人形の案内でお菓子の国を旅するという内容を持つ。

組曲版・第2曲「行進曲」

クララと弟がクリスマス・ツリーの周りを行進する。

全曲版・第6曲「情景」～客人の退場、子どもたちは寝室へ

パーティーが終わって客たちは帰途に就き、子どもたちは寝室へ。楽しさの余韻を感じさせる曲調。

全曲版・第7曲「情景」～くるみ割り人形とねずみの王様の戦闘

真夜中、クララの夢にねずみたちが現れておもちゃの兵隊たちと戦闘になる。最後はくるみ割り人形とねずみの王様の一騎打ち。

組曲版・第3曲「金平糖の精の踊り」

お菓子の国の女王金平糖の精が甘く感傷的なこの曲ののってソロを踊る。

組曲版・第4曲「トレパーク(ロシアの踊り)」

大麦糖の精の踊り。急速で躍動感にみちたロシアの農民舞曲。

組曲版・第8曲「花のワルツ」より

女王の侍女たちの踊る華麗なワルツ。

全曲版・第15曲より「アポテオーズ」

バレエの終幕で出演者が顔を揃える時の音楽がアポテオーズ。「花のワルツ」から続けて奏される。

バレエ音楽「白鳥の湖」

台本:新井鷗子の音楽劇台本シリーズ

「おはなシクラシック②」(アルテスパブリッシング出版)より

1875年5月、モスクワのボリショイ劇場から新作バレエの依頼を受けたチャイコフスキーは、白鳥伝説にもとづくバレエを構想する。当時のロシアのバレエ音楽は、劇場監督と振付師のプランに従って拍子、テンポ、小節数などが厳密に割り振られ、作曲家は機械的に作曲していくのが慣例だったが、チャイコフスキーはそれに反発し、筋立て、演出、振り付け、すべてと一体となった芸術作品としてのバレエ音楽を目指した。彼が心血を注いだ全4幕の「白鳥の湖」は1876年4月に完成、1877年2月20日に初演された。ところが、オデット役のカルパコワが全盛期を過ぎていたことや指揮者の理解不足などから不評に終わる。そしてそれきり、彼の存命中にこのバレエが上演されることはなかった。1893年11月6日、チャイコフスキーが53歳で急逝した。すると、かねてこのバレエの真価を見抜いていたペテルブルクのマリンスキー劇場の振付師マリウス・ブティバ(1819～1910)が急速これを追悼公演として部分上演する。その好評に勢いを得たブティバは弟子イワノフと共に再構成したブティバ＝イワノフ版を用い、1895年1月27日に全幕復活再演して大成功を収めた。本日は全4幕29曲あるバレエ音楽から代表的な数曲が演奏される。

組曲版・第1曲「情景」

有名な白鳥の主題をオーボエが奏する。

組曲版・第2曲「ワルツ」より

王子の成年式で村の娘たちが踊る華やかなワルツ。

組曲版・第4曲「情景(オデット姫と王子のパ・ダクシオン)」

パ・ダクシオンとは物語を展開させるために踊りと踊りの間の劇的な情景場面で演じられるパントマイム風の演技をいう。木管とハープの序奏を経てヴァイオリンが甘美な旋律を奏する。

組曲版・第5曲「ハンガリーの踊り」

王子の花嫁を選ぶ舞踏会の場面で踊られる踊りのうちの1曲。緩急の対比が明瞭な舞曲。

全曲版・第28曲「情景」(アレグロ・アジタート)

夜の湖。オデットが絶望的な表情で「王子は魔法使いの娘を妃に選んだ」と白鳥たちに語る。彼女の語りは木管と弦楽合奏の対話で示され、白鳥たちの慰めの言葉は弦の緩やかな旋律で表現される。

全曲版・第29曲「情景・終曲」(アンダンテ～アレグロ・アジタート)

王子が現われてオデットに許しを乞ううち嵐が到来する。二人の昇天を暗示してティンパニの和音で曲を結ぶ。

[萩谷 由喜子]

## リレー コンサート B 神尾真由子ヴァイオリン名曲選 with 田村響

サウスホール 16:30開演(18:00頃終演予定)

### G.ガーシュイン(J.ハイフェッツ 編)／歌劇「ポーギーとベス」(セレクション)

G.Gershwin(arr. J.Heifetz)/Porgy and Bess, Selections

サマータイム／女はあてにならないぜ(Summertime/A Woman is a Sometime Thing)

うちの人は死んでしまった(My Man's Gone Now)

そんなことはどうでもいいさ(It Ain't Necessarily So)

ベスよ、おまえは俺のもの(Bess, You is My Woman Now)

ブルースのテンポで(Tempo di Blues)

### P.d.サラサーテ／スペイン舞曲集 Op.21～23

P.d.Sarasate/Spanish Dances Op.21～23

I マラゲーニャ Op.21-1

II ハバネラ Op.21-2

III アンダルシアのロマンス Op.22-1

IV ホタ・ナバーラ Op.22-2

V プライエーラ(祈り) Op.23-1

VI サバテアード Op.23-2

### ～休憩～

### P.d.サラサーテ／カルメン幻想曲 Op.25

P.d.Sarasate/Carmen Fantasy Op.25

### ツィゴイネルワイゼン Op.20

Zigeunerweisen Op.20

神尾 真由子(ヴァイオリン)

田村 響(ピアノ)

### G.ガーシュイン(1898～1937)／J.ハイフェッツ 編

歌劇「ポーギーとベス」(セレクション)

ユダヤ系ロシア移民の子としてニューヨークの下町ブルックリンに生まれたジョージ・ガーシュインは1924年の「ラブソディ・イン・ブルー」で名声を確立した。1935年初演のオペラ「ポーギーとベス」は、足の不自由な底辺生活者ポーギーが、ならず者クラウンと手を切ることのできない娼婦ベスを救おうとする純愛物語。登場人物はすべて黒人という異色オペラである。名ヴァイオリニストのハイフェッツはその中の何曲かをヴァイオリン用に編曲した。

サマータイム／女はあてにならないぜ

(Summertime/A Woman is a Sometime Thing)

『サマータイム』は幕開けに漁師ジェイクの妻クララが「夏になれば暮らしは楽になる、魚は捕れるし、綿の背丈も伸びる。だから泣くんじゃないよ」と歌う子守歌。「女はあてにならないぜ」は続く第1幕で長屋の住人ジェイクとロビンズがサイコロ・ゲームに興じながら歌うざれ唄。するとそこへ、遊び人のクラウンが情婦ベスを連れて入ってくる。

うちの人は死んでしまった(My Man's Gone Now)

男たちは喧嘩になり、クラウンはロビンズを刺殺して逃亡する。夫を殺されたセリーナはこの嘆きの歌を歌う。

そんなことはどうでもいいさ(It Ain't Necessarily So)

第2幕で、麻薬密売人スポルティング・ライフが聖書を茶化して歌う。

ベスよ、おまえは俺のもの(Bess, You is My Woman Now)

第3幕でポーギーとベスが互いに愛情を表明し合い、この愛の二重唱を歌う。

ブルースのテンポで(Tempo di Blues)

第3幕第2場でスポルティング・ライフとベスの二重唱『ニューヨークの行き船がもうすぐ出る』をもととした1曲。甘く物憂げな前奏から始まるが、ピアノが入ると活気を増し技巧的な音楽を練り広げる。

### P.d.サラサーテ(1844～1908)

スペイン舞曲集 Op.21～23

19世紀後半のヴァイオリン界の大スター、パブロ・サラサーテはスペイン情緒に満ちた魅惑的な楽曲を多数手がけた。そのうち1878～1882年に書かれた郷土舞曲によるヴァイオリンとピアノのための小品集「スペイン舞曲集」から6曲が演奏される。

#### I. マラゲーニャ

マラゲーニャはマラガ地方に発祥した3拍子の踊りの曲。陽性の旋律が独特の粘りをもって奏される。

#### II. ハバネラ

ハバネラは南米キューバ発祥の2拍子の緩やかな舞曲だが、キューバはスペイン領であるためスペイン音楽の一種とみなされている。ハバネラ特有の付点リズムにのせて力強い旋律が歌われる。

#### III. アンダルシアのロマンス

南部アンダルシア地方の情景を彷彿とさせる6/8拍子の緩やかなテンポの抒情的な曲。

#### IV. ホタ・ナバーラ

ホタは急テンポ、3拍子のスペイン民謡。これは北部ナバラ地方に伝わるホタ。快活な前奏のあとと部に入る。

#### V. プライエーラ(祈り)

南スペインの歌の旋律。ほの暗い曲調にのせて嘆きの歌が奏される。

#### VI. サバテアード

急テンポの6/8拍子でリズムックに奏されるアンダルシア地方の踊りの音楽。両足の靴の踵を打ち鳴らして踊る。

### カルメン幻想曲 Op.25

1875年に初演されたビゼーのオペラ「カルメン」は、スペインのセビリアを舞台に純真な伍長ドン・ホセが妖艶な女カルメンのために破滅し、ついに彼女を刺殺する、という暗い話だが、音楽は名旋律の宝庫である。サラサーテによるこの幻想曲は、オペラ第4幕への間奏曲(アラゴネーズ)を用いた技巧的な序奏から始まる。これがピツィカートで静かに終わると、第1幕でカルメンの歌う〈ハバネラ～恋は野の鳥〉が装飾的に奏され、次いで、カルメンの鼻歌〈トゥ・ラララ〉の旋律が現れる。さらにカルメンがホセを誘惑する〈セギディーリャ〉、酒場でロマたちの踊る〈ロマの歌〉と続く。

### ツィゴイネルワイゼン Op.20

サラサーテは自分の名人芸を披歴するための技巧的な作品を数多く書いた。これはその代表作で、ドイツ語タイトルの「ツィゴイネルワイゼン」とは「ツィゴイナーの旋律」つまり「ロマ民族のメロディー」の意味である。サラサーテの母国スペインにもロマの人々は数多くみられたので、彼もロマ音楽に触れる機会が多かったらしく、この曲にはその旋律が巧みに採り入れられている。全体は3部構成。第1部は憂愁にみちたロマ風の旋律から開始される。第2部では弱音器をつけて感傷的な歌が歌われ、急テンポの第3部は目の眩むような技巧が続出し、最後は華やかに終わる。

〔萩谷 由喜子〕



## リレー コンサート C ブラームスと楽友ドヴォルザーク～室内楽の響き

サウスホール 13:00開演(14:30頃終演予定)

### A.ドヴォルザーク／弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」Op.96, B.179

A.Dvořák/String Quartet No.12 in F Major “American” Op.96, B.179

- I アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- II レント
- III モルト・ヴィヴァーチェ
- IV フィナーレ、ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロツポ

玉井 菜採/城戸 かれん(ヴァイオリン)

須田 祥子(ヴィオラ)

中木 健二(チェロ)

### ～休憩～

### J.ブラームス／ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op.34

J.Brahms/Piano Quintet in F Minor Op.34

- I アレグロ・ノン・トロツポ
- II アンダンテ・ウン・ポーコ・アダージョ
- III スケルツォ、アレグロ
- IV フィナーレ、ポーコ・ソステヌート～アレグロ・ノン・トロツポ

玉井 菜採/城戸 かれん(ヴァイオリン)

須田 祥子(ヴィオラ)

中木 健二(チェロ)

浜野 与志男(ピアノ)

A.ドヴォルザーク(1841～1904)

弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」Op.96, B.179

戸数わずか50軒のボヘミアの寒村に宿屋兼肉屋の跡取り息子として生まれたアントニン・ドヴォルザークは、家業の継承を希望する父親を説得して音楽の道へ進む。若い頃は芽が出ず赤貧にあえぐが、作曲コンクールの審査員だったブラームスに認められたのを機に着々と成功を収めていった。1892年9月、すでに国際的な名声を博していた彼は、ニューヨークのナショナル音楽院から院長に招聘されて渡米し、同地で初めて耳にした黒人霊歌やアメリカ先住民の歌に啓発されて、一連の傑作を誕生させていった。渡米の翌年5月にまず「新世界」交響曲を完成させた彼は、その年の夏期休暇を祖国チェコからの移民が多く住んでいるアイオワ州のスピルヴイルで過ごし、音楽院の学生コヴァルジークの実家で大歓迎を受けた。その返礼の意をこめ、コヴァルジーク一家が演奏できるようにと書き上げたのが本作だった。着手日は1893年6月8日、同郷人に囲まれてすっかり寛いだ彼のペンは快調に進み、わずか3日間でスケッチを終えると6月23日にこの名曲を完成させている。

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ヘ長調、4/4拍子。ヴィオラが5音音階による親しみやすい第1主題を歌い出して始まり、やがて現れる野性的な第2主題とともに楽章を構成する。

第2楽章：レント、ニ短調、6/8拍子。しみじみとした緩徐楽章。ヴァイオリンが黒人霊歌風の調べを切々と歌い、チェロがこれを引き継ぐ。中間部はボヘミア民謡風の音楽で、祖国への思いがひたすら歌われる。

第3楽章：モルト・ヴィヴァーチェ、ヘ長調、3/4拍子。変則的なスケルツォ楽章。ヘ短調の中間部主題は主部の主題から派生した。スピルヴイルで耳にした鳥のさえずりがもともになったとされる。

第4楽章：フィナーレ、ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロツポ、ヘ長調、2/4拍子。快活なロンド・フィナーレ。ロンド主題と対照的なコラール風の美しいエピソードを挟んで演奏される。

J.ブラームス(1833～1897)

ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op.34

1862年、ヨハネス・ブラームスは弦楽四重奏にチェロ1本を加えた弦楽五重奏曲を書き上げ、クララ・シューマンとヨーゼフ・ヨアヒムの意見を仰ぐが、好評を得られなかった。そこで彼は「2台のピアノのためのソナタ」に改作し、1864年4月17日にウィーンで、リストの高弟カール・タウジヒ(1841～1871)と自身によって初演する。ところが、クララから「ピアノ2台ではせつかくのよい楽想を生かすきれない」という助言が届いたため、もとのピアノ五重奏曲の形に再改訂した。曲は1865年に出版され、1868年3月24日にパリのエラル音楽堂で公開初演されて大成功を収めた。以後、古今の同種室内楽曲の中でも屈指の名曲として広く愛好されている。一方、「2台のピアノのためのソナタ」も残されて、現在ではピアノ・デュオの人気曲となっている。

第1楽章：アレグロ・ノン・トロツポ、ヘ短調、4/4拍子。ソナタ形式。激しい情熱を秘めた峻厳な主題がピアノと第1ヴァイオリンとチェロからいきなり示されて始まる。

第2楽章：アンダンテ・ウン・ポーコ・アダージョ、変イ長調、3/4拍子。3部形式。躊躇いがちに歌い出される温かな緩徐楽章。ホ長調の中間部では動きが出て、弦とピアノが対話する。

第3楽章：スケルツォ、アレグロ、ハ短調、6/8拍子と2/4拍子が交互する。不安げな表情の主題、スタッカートつきの狭い音程の主題を経て、戦闘的な勇ましいスケルツォ主題が登場する。2番目の主題のフガートが展開されたのちに、せわしない雰囲気の中間部に入り、その後スケルツォ主題が再帰する。最後は突然終わる。

第4楽章：フィナーレ、ポーコ・ソステヌート～アレグロ・ノン・トロツポ、ヘ短調、2/2拍子～2/4拍子。冒頭は弱奏開始の幻想的な序奏。主部は展開部を欠くソナタ形式、またはロンド形式。後半は6/8拍子になって激しく盛り上がり、最後は一気に全曲を結ぶ。

[萩谷 由喜子]

## オーケストラ コンサート II

### ショスタコーヴィチの真骨頂!「ピアノ協奏曲」&「革命」

メインホール 16:00開演 (18:00頃終演予定)

#### D.ショスタコーヴィチ

D.Shostakovich

#### 祝典序曲 イ長調 Op.96

Festive Overture Op.96

#### ピアノ協奏曲 第1番 ハ短調 Op.35

Piano Concerto No.1 in C Minor Op.35

- I アレグレット
- II レント
- III モデラート
- IV アレグロ・コン・プリオ

阪田 知樹(ピアノ)

菊本 和昭(トランペット)

#### ～休憩～

#### 交響曲 第5番 ニ短調 Op.47 「革命」

Symphony No.5 in D Minor Op.47

- I モデラート - アレグロ・ノン・トロッポ
- II アレグレット
- III ラルゴ
- IV アレグロ・ノン・トロッポ

三ツ橋 敬子(指揮)

朝岡 聡(ナビゲーター)

東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)/コンサートマスター:近藤 薫

D.ショスタコーヴィチ(1906～1975)

#### 祝典序曲 イ長調 Op.96

帝政ロシアに生まれたドミトリー・ショスタコーヴィチは少年時代に革命を体験し、作曲家となってからはスターリン政権に翻弄された。そんな彼が1947年8月に革命30周年を記念して書いたのが本作である。作曲当初は発表されず、1954年の革命37周年記念演奏会開催に際し、ボリショイ劇場オーケストラ、あるいは共産党中央委員会からの急な依頼によって改作され同年11月6日に初演された。曲は金管楽器の華々しいファンファーレから始まる。弦楽器が加わって勢いが増したところで序奏を終え、疾走する第1主題と旋律的な第2主題によるソナタ形式の主部に入る。主部は、ロシア国民音楽の父と言われる大先輩、ミハエル・グリンカ(1804～1857)の「ルスランとリュドミラ」序曲が意図的に踏まえられている。

#### ピアノ協奏曲 第1番 ハ短調 Op.35

1933年、ショスタコーヴィチはレニングラード・フィルのトランペット奏者、アレクサンドル・シュミュトの演奏を念頭において、独奏トランペット入りのこの珍しいピアノ協奏曲を書きあげ、同年10月15日に自身のピアノ独奏で同フィルとともに初演した。楽器編成は独奏ピアノ、変ロ長調の独奏トランペット、それに弦5部のみ。そのため、シンプルな響きがこの曲の特徴となっている。4楽章からなるが、切れ目なしに演奏される。

**第1楽章:**アレグレット、4/4拍子。ソナタ形式。ピアノのすばやい楽句による短い序奏に続いてピアノが第1主題を独奏する。展開部ではトランペットが活躍する。

**第2楽章:**レント、3/4拍子。弦がワルツのリズムを刻んだのち、弱音器つきの第1ヴァイオリンが感傷的な第1主題を歌い出す。ほかの3楽章と鮮やかな対比をみせ静謐な楽章。

**第3楽章:**モデラート、4/4拍子。ほぼピアノ独奏に終始する簡潔な間奏曲。

**第4楽章:**アレグロ・コン・プリオ、2/4拍子。ギャロップのリズムを持つ主題を中心とした歯切れのよいロンド・フィナーレ。疾走するピアノの合間を縫ってトランペットが勢いあふれる対句を吹き、阿吽の呼吸でピアノとの目まぐるしいやり取りを繰り返すかと思えば、伸びやかな歌も聴かせる。ピアノの活躍も目覚しく聴きどころ満載である。

#### 交響曲 第5番 ニ短調 Op.47 「革命」

スターリン独裁政権時代の1936年1月、ショスタコーヴィチはソヴェト共産党の機関紙「プラウダ」紙上で、彼のオペラ「ムツェンスク群のマクベス夫人」とバレエ「明るい小川」がブルジョア趣味と欺瞞に満ちた墮落作品であるとして厳しく糾弾された。当時、こうした批判を受けることは反逆者と見做されるに等しいことで、シベリアの強制収容所送りが待っていた。そこで彼は、翌1937年11月21日の革命20周年記念日に、社会主義リアリズム路線に沿った「簡潔、明瞭、古典的、民族的、社会主義的」の条件を満たす本作を発表して名誉回復に成功する。4つの楽章を通じて「苦悩から歓喜へ」という明瞭なテーマが貫かれている点も好感された。とはいえ、この曲は単に体制に迎合する保身作品ではなく、スターリン路線への賛美、追従とみせかけて、その裏に隠れた体制批判意図がこめられている、といわれている。エフゲニー・ムラヴィンスキー(1903～1988)指揮、レニングラード・フィルによる初演は大成功を収め、以後、20世紀を代表する交響曲として親しまれている。「革命」の副題は第三者によるもので、ほぼ日本でのみ用いられている。

**第1楽章:**モデラートーアレグロ・ノン・トロッポ、ニ短調、4/4拍子。緊迫感にみちた第1主題と甘美な第2主題によるソナタ形式。

**第2楽章:**アレグレット、イ短調、3/4拍子。力強さの中にショスタコーヴィチ一流のアイロニーを秘めたスケルツォ。

**第3楽章:**ラルゴ、嬰ヘ短調、4/4拍子。金管楽器が沈黙し、弦と木管が内省的な響きをつくりだす。

**第4楽章:**アレグロ・ノン・トロッポ、ニ短調～ニ長調、4/4拍子。これまでの楽章で蓄えていたエネルギーが一挙に噴出するかのような圧倒的フィナーレ。ラの音を強調するコーダでさらに盛り上がり、熱狂的興奮のうちに曲を結ぶ。

[萩谷 由喜子]



# Profile

A



**弓新 (ヴァイオリン) Arata Yumi** 《春》独奏

2008、2009、2010、2011 年度奨学生

2011年ヴェニスマス国際ヴァイオリンコンクール特別賞、2018年ロン＝ティボー国際音楽コンクール第5位。2020～2023年北西ドイツ・フィルコンサートマスター。ウンベルト・ベネデッティ・ミケランジェリ、ラルフ・ワイケルト、クシシュトフ・ウルバンスキ、アンドレア・パッティストニ等のタクトで、チューリッヒ室内管弦楽団、ウクライナ国立フィルハーモニー管弦楽団、シンフォニア・イタリアーナ管弦楽団、スロバキア国立室内管弦楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団等と共演。室内楽ではマルタ・アルゲリッチ、ミシェル・ダルベルト、五嶋みどり等と共演。チューリッヒ芸術大学でブロンとグリンゴルツに、エリザベート王妃音楽院でデュメイに、ライブツィヒ音楽大学でヘーバルトに師事。2016年度青山音楽賞新人賞・2018年度青山音楽賞バロックザール賞受賞。

A



**小林 美樹 (ヴァイオリン) Miki Kobayashi** 《夏》独奏

2013年度奨学生

レオポルド・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクールにてギドン・クレーメル氏より審査員特別賞を受賞後、5年に一度ポーランドで行われ伝統と格式あるヴェニスマス国際ヴァイオリンコンクールで第2位を受賞。確固たるテクニックにもとづく、歌心豊かな大きな演奏と艶やかな美音で常に注目を集めて来た。NHK交響楽団はじめ国内主要オーケストラ、さらにはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーと共演する他、名手ヴェンゲーロフや国内外の多くの指揮者からの信頼も厚い。室内楽にも力を発揮する他NHKはじめ「題名のない音楽会」等TVにも度々出演し多くのファンを獲得している。出光音楽賞の受賞歴や「レコード芸術」誌の特選盤を含む4枚のCDがリリースされている。徳永二男氏、パヴェル・ヴェルニコフ氏に師事し桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースの特待生からウィーン私立音楽芸術大学で学んだ。

©山吹康男

A



**黒川 侑 (ヴァイオリン) Yu Kurokawa** 《秋》独奏

2016、2017年度奨学生

京都市生まれ。第75回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)他3つの特別賞を受賞。第6回仙台国際音楽コンクールで聴衆賞受賞。これまでにスイス・ロマンド管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団をはじめ国内外の主要オーケストラと共演している他、リサイタル、室内楽でも広く好評を博している。出光音楽賞、青山音楽賞をはじめ、その演奏活動への受賞も多数。「クラシック倶楽部」「題名のない音楽会」等メディア出演も多い。京都市交響楽団との共演が収録された「名曲ライブシリーズ」の他、2023年にはCD「ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ集」をリリース。2024年度には「J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集」の収録を予定している。

京都市立芸術大学非常勤講師。使用楽器は Guarneri del Gesù (1742)。

©Ikuo Hiramatsu

A



**岡本 誠司 (ヴァイオリン) Seiji Okamoto** 《冬》独奏

2015、2016年度奨学生

第19回J.S. バッハ国際コンクールのヴァイオリン部門にてアジア人で初めて優勝し注目を集め、2021年ARDミュンヘン国際音楽コンクールヴァイオリン部門第1位入賞する等受賞歴多数の実力派。現在はクロンベルク・アカデミーに在籍し、ベルリンにて研鑽を積みながら、日本およびヨーロッパでソロはもちろん室内楽等、精力的な演奏活動を行っている。JNO(Japan National Orchestra)のコンサートマスターまた、昨年よりハンス・アイスラー音楽大学で後進の指導もしている。東京芸術大学を卒業後、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学の修士課程修了。2022年文化庁長官より表彰。第31回出光音楽賞を受賞。ヴァイオリンはNPO法人イエロー・エンジェルよりM.ゴフリヤー(1702年)の貸与を受け、株式会社日本ヴァイオリンより名器貸与特別助成を受けている。公式ホームページ <https://seijioakamoto.net/>

©S.Ohsugi

A



**白井 圭 (ヴァイオリン) Kei Shirai**

2001、2002年小澤征爾音楽塾 塾生

1983年トリニダード・トバゴ共和国に生まれる。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を卒業。庭野冬子、徳永二男、大谷康子、田中千香士、堀正文、ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。2007年よりウィーン国立音楽演劇大学室内楽科にてヨハネス・マイスル、ヴェスナ・スタンコービッチ両氏に師事。日本音楽コンクール(第2位及び増沢賞)、ARDミュンヘン国際コンクール(第2位及び聴衆賞)、ハイドン国際室内楽コンクール(第1位及び聴衆賞)を始めとしたコンクールで受賞、ソリストとしてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団等内外のオーケストラと共演、ウィーン楽友協会や、ロンドンのウイグモアホール、ベルリン・コンツェルトハウス等で演奏する。2018年3月まで神戸市室内合奏団コンサートマスター、2020年4月より2023年3月までNHK交響楽団ゲスト・コンサートマスターを務める。2023年より鶴沼音楽アカデミーを主宰(<https://km-academy.jp>)。

A



**青木 調 (ヴァイオリン) Shirabe Aoki**

1993、1994年度セミナー生

2000、2003年小澤征爾音楽塾 塾生

静岡と名古屋にて谷口由美子、近藤フミ子、石田なをみ、佐々木はるのの各氏に師事。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースを経て、同大学大学院大学修了。堀正文、原田幸一郎、藤原浜雄の各氏に師事。1992年日本音楽コンクール第2位、併せて黒柳賞受賞。1995年日本国際音楽コンクール第2位。桐朋学園オーケストラ、名古屋フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団と共演。倉敷音楽祭、宮崎国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本等の音楽祭へ参加。2008年と2010年に、全日本学生音楽コンクールの審査をする。2005年、NHK交響楽団へ入団。

A



**石原 悠企 (ヴァイオリン) Yuki Ishihara**

2021、2022年度奨学生

ベルリン芸術大学ヴァイオリン科学士課程・修士課程を共に最優秀で修了。その後、同大学指揮科に在籍。バイエルン放送交響楽団オーケストラ・アカデミー修了。第9回スウェーデン国際デュオ・コンクールや第2回ベートーヴェン国際室内楽コンクール等で優勝・入賞する他、第36回霧島国際音楽祭にて2つの音楽祭賞と音楽監督賞を受賞。また、指揮者としてブランデンブルク交響楽団、プロイセン室内管弦楽団等の公演に出演。東京・春・音楽祭、霧島国際音楽祭等の音楽祭に出演する他、日本やヨーロッパ各地で演奏活動を行う。近年は客演コンサートマスター、客演首席奏者として読売日本交響楽団等の公演にも出演している。

©Shigeto Imura

A



**神谷 未穂 (ヴァイオリン) Miho Kamiya**

2001、2002年度奨学生

桐朋学園大学、ハノーファー音楽大学をともに首席卒業。さらにパリ国立高等音楽院最高課程を修了。北九州国際音楽祭TOTOクフモブライズ室内楽(デュオ)第1位、ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクールにてパガニーニ賞、オーストリア室内楽音楽祭を受賞。国内外のオーケストラに度々ソリストとして招かれ共演を重ねる。一般財団法人地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、地域に密着した音楽活動を展開し高く評価されている。平成23年度宮城県芸術選奨受賞。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団、横浜シンフォニエッタコンサートマスター。千葉交響楽団特任コンサートマスター、宮城学院女子大学特命教授。

©Fotofolly

[ロームミュージックフレンズ]

●奨学生 ●在外研究生(ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生) ●セミナー生(ロームミュージックファンデーション音楽セミナーまたはロームミュージックセミナー受講生)  
●学生フェスティバル出演者(京都・国際音楽学生フェスティバル出演者) ●小澤征爾音楽塾 塾生

A | リレー コンサート A | I | オーケストラ コンサート I | B | リレー コンサート B | C | リレー コンサート C | II | オーケストラ コンサート II



# Profile

A



**島田 真千子** (ヴァイオリン) Machiko Shimada

1999、2000年度奨学生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を首席で卒業後、ドイツ・デトモルト音楽大学院を最優秀で修了。全日本学生音楽コンクール全国大会第1位、日本音楽コンクール第2位、、パガニーニ国際、J.S. バッハ国際コンクール等が入賞、愛知県芸術文化選奨文化賞、名古屋市芸術奨励賞を受賞。これまで『バッハ無伴奏ソナタ&パルティータ集』等3枚のCDをリリース。現在、セントラル愛知交響楽団ソロコンサートマスター、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー。愛知県立芸術大学及び京都堀川音楽高等学校の非常勤講師。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されているG.B. ガダニーニ(1769年)。

A



**西川 茉莉奈** (ヴァイオリン) Marina Nishikawa

2011年度奨学生

2008、2009小澤征爾音楽塾 塾生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。同大学大学院修士課程を修了。文化庁新進芸術家海外研修員として渡独。ローム ミュージック ファンデーションより助成を受け、更に研鑽を積む。ベルリン芸術大学を首席卒業。2010～2011年、Deutsche oper orchestraアカデミー生。2012～2013年紀尾井シンフォニエッタ東京シーズンメンバー。これまでに藝大フィルハーモニア管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、神戸市室内管弦楽団等と共演。「平和堂財団芸術奨励賞」「滋賀県次世代文化賞」受賞。宮崎国際音楽祭、上野の森「東京・春・音楽祭」、セイジ・オザワ松本フェスティバル等、多数出演。2019年4月NHK総合テレビ「ごごナマ」生放送にゲスト出演。NHK FMラジオ「リサイタル・パッション」に出演。日本センチュリー交響楽団アシスタント・コンサートマスターを経て現在、同志社女子大学講師。

A



**三浦 克之** (ヴィオラ) Katsuyuki Miura

1995年度セミナー生

4歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科(共学)を経て、桐朋学園大学入学。在学中にヴィオラに転向。卒業後、同大学研究科修了。1995年ローム ミュージック ファンデーション主催「夏のスイスセミナー」に参加。2000年読売日本交響楽団に入団。これまでにヴァイオリンを村川千秋、松谷恵、濱野正、梅津南美子、ヴィオラを岡田伸夫、店村真積、室内楽を名倉淑子、徳永二男、生沼誠司の各氏に師事。現在、室内楽等の活動に積極的に取り組んでいる。

©読売日本交響楽団(撮影:浦野俊之)

A



**吉田 有紀子** (ヴィオラ) Yukiko Yoshida

1996年度セミナー生

桐朋学園大学音楽学部を経て同大学研究科修了。1994年カルテット・エクセルシオを結成。第2回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第2位、第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、併せてS. シャリノ特別賞、第19回新日鉄音楽賞(現・日本製鉄音楽賞)「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞、青山音楽奨励賞(現パロックザール賞)等受賞歴多数。サイトウ・キネン・オーケストラ他、数々の音楽祭に参加。カルテット・エクセルシオのメンバー。J:COM浦安音楽ホールレジデンス・アーティスト。東京藝術大学及び同附属音楽高等学校非常勤講師。

A



**阪本 奈津子** (ヴィオラ) Natsuko Sakamoto

1996年度セミナー生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て同大学院修士課程(弦楽四重奏専攻)修了。ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。1995年にカルテット・アルモニコ結成。第4回シューベルト国際コンクールにおいて優勝、併せてベルクの叙情組曲の演奏に対し20世紀音楽最優秀演奏賞受賞、第8回ロンドン国際弦楽四重奏コンクール第2位、第2回ハイドン国際コンクール最高位。東京オペラシティ「B→Cシリーズ」、トッパンホール「エスポワールシリーズ」第1弾、エクサンプロヴァンス音楽祭(フランス)、ハイドンフェスティバル(オーストリア)、ブレッド音楽祭(スロヴェニア)等に出演。苅田智子、梅原ひまり、沼田園子、澤和樹、岡山潔、ヨハネス・マイスル(アルティスクアルテット)に師事。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。

A



**門脇 大樹** (チェロ) Hiroki Kadowaki

2007、2008、2009、2010年度奨学生

2001、2002年小澤征爾音楽塾 塾生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学卒業。日本クラシック音楽コンクール第1位及びグランプリ。第5回ビバホールチェロコンクール第3位。第74回日本音楽コンクール第3位。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール第1位。平成28年度エネルギー音楽賞受賞。東京藝術大学卒業後、ローム ミュージック ファンデーションより奨学金を得て、レジオエミリア音楽院で研鑽を積む。ロリン・マゼール指揮、シンフォニカスカーニーニのベートーヴェン交響曲全曲演奏会に参加。その後アムステルダム国立音楽院にてアンナー・ビルスマのマスタークラスを受講。現在東京音楽大学非常勤講師、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者を経て日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・チェロ奏者。

A



**唐沢 安岐奈** (チェロ) Akina Karasawa

1994、1995年度奨学生

名古屋市立菊里高等学校音楽科、東京藝術大学を経て、同大学院修了。ハンガリー国立リスト音楽院留学。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。1990年福島賞受賞。1991年現代音楽室内楽コンクール第1位、ならびに朝日現音賞受賞。1992年東京国際音楽コンクール室内楽部門第2位、ルフトハンザ賞受賞。1996年第66回日本音楽コンクール入選。これまでに東京交響楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団と共演する他、全国でソロ・室内楽等で活躍中。故堀江泰、三木敬之、林良一、D. シャフラン、C. オンチャイ、H. シュティラーの各師に師事。現在、読売日本交響楽団在籍。

A



**高橋 純子** (チェロ) Junko Takahashi

1994年度セミナー生

相愛学園大学子供のための音楽教室と共にチェロを始める。桐朋女子高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。米国、Southern Methodist Universityより奨学金を得てアーティストディプロマ修了。NHK-FMリサイタル、宮崎国際音楽祭等出演。蓼科高原音楽祭奨励賞受賞。東京都交響楽団チェロ奏者。桐朋学園子供のための音楽教室講師。斎藤建寛、徳永兼一郎、山崎伸子、藤森亮一、各師に師事。東日本大震災で親を亡くした子供達のためのチャリティーコンサートを開催し、「ももかき育英会」を通じて寄付も行っている。

©Taira Tairadate

[ロームミュージックフレンズ]

●奨学生 ●在外研究生(ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生) ●セミナー生(ロームミュージックファンデーション音楽セミナーまたはロームミュージックセミナー受講生)  
●学生フェスティバル出演者(京都・国際音楽学生フェスティバル出演者) ●小澤征爾音楽塾 塾生

A リレー コンサート A I オーケストラ コンサート I B リレー コンサート B C リレー コンサート C II オーケストラ コンサート II



# Profile

A



©Eiichi Henna

**高橋 洋太** (コントラバス) Yota Takahashi

2005、2006年小澤征爾音楽塾 塾生

桐朋学園大学卒業後、2006年に同研究科修了。同時に東京都交響楽団に入団。2005年青森市民文化顕彰受賞。2007年東京・青森にてデビューリサイタルを開催し絶賛を博す。2016年デビュー10周年のリサイタルでは「楽器に対して非常に慎重に、そして楽譜に対して謙虚に対峙する」(音楽の友2016年12月号)と評された。セイジ・オザワ松本フェスティバルはじめ、各地の音楽祭に毎年出演している。雑誌「Tarzan」にて音楽家としての身体のメンテナンスを紹介する等、その活動は多岐に渡る。2022年3月にコントラバスでは初録音となるピアソラ作曲の「タンゴの歴史」を収録した自身初のアルバムをリリース。

A



©Ryu Koshino

**佐野 央子** (コントラバス) Nakako Sano

学生フェスティバル1999出演者

2000、2001年小澤征爾音楽塾 塾生

新潟県栃尾市(現・長岡市)出身。12歳よりコントラバスを始める。東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中、東京藝術大学史上初となる女性コントラバスソリストに選ばれ、若杉弘指揮、藝大フィルハーモニー管弦楽団と共演。2006年、ドイツミュンヘンに留学し研鑽を積む。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ in ナント(フランス)等多くの音楽祭に参加。全国主要オーケストラの客演首席を務める等、オーケストラ奏者としての活動の他、ソロ奏者として、全国各地で演奏会を開催し、好評を博す。2017年9月、サントリーホールにて山田和樹指揮、日本フィルハーモニー交響楽団と、大澤壽人作曲コントラバス協奏曲のソリストとして世界初演を果たす。今までに、村上満志、永島義男、山本修、ヴォルフガング・ギョトラ、ハインリヒ・ブラウンの各氏に師事。現在、東京都交響楽団コントラバス奏者。

A



**越知 晴子** (チェンバロ) Haruko Ochi

2004、2005、2006年度奨学生

京都市出身。京都市立芸術大学大学院修了。ローム ミュージック ファンデーションより助成を受け渡独。ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。同大学講師を経て帰国。第7回 Josef Suder 国際歌曲コンクールにて最優秀伴奏者賞受賞。キッシンゲンの夏音楽祭、シャネル・ピグマリオン・デイズ、仙台クラシックフェスティバル、ローム ミュージック フェスティバル等数多くの演奏会に出演。またバイエルンラジオ放送、NHK-FM、NHKテレビ番組「ららら♪クラシック」「クラシック倶楽部」「クラシック音楽館」等でも演奏する。現在新国立劇場、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール等でコレペティートルを務める。京都市立芸術大学、大阪音楽大学、神戸女学院大学非常勤講師。

I II



©Earl Ross

**三ツ橋 敬子** (指揮) Keiko Mitsuhashi

2005、2006、2007、2008年度奨学生

2009.10~2011.9在外研究生

2004、2009年度セミナー生

東京藝術大学及び同大学院を修了。ウィーン国立音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。小澤征爾、小林研一郎、G. ジェルメッティ、E. アツェル、H=M. シュナイト、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。第10回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールにて日本人として初めて優勝。併せて聴衆賞、ペドロッチ協会賞を受賞し、最年少優勝で初の3冠に輝いた。第9回アルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールで女性初の受賞者として準優勝。第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2009年Newsweek Japan誌にて「世界が尊敬する日本人100人」に選出。NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団をはじめ国内主要オーケストラとの共演を重ねる。一級小型船舶操縦士。

I II



**朝岡 聡** (ナビゲーター) Satoshi Asaoka

テレビ朝日在籍時は「ニュースステーション」各種スポーツ実況等で活躍。1995年フリーになってからは、コンサートソムリエとしてクラシック・コンサートの企画・司会でも活躍中。クラシック音楽の興味深いポイントを軽妙な話術で展開するトークに定評があり、愛好者の裾野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。国内外のオーケストラやアーティストとの共演も多い。日本ロッシーニ協会副会長。日本音楽教育文化振興会理事。東京藝術大学客員教授。

B



©Makoto Kamiya

**神尾 真由子** (ヴァイオリン) Mayuko Kamio

2001、2002年度奨学生

4歳よりヴァイオリンをはじめ。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団等と共演。これまで里屋智佳子、小栗まぢ絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・プロンの各氏に師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオーケストラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。東京音楽大学教授。

B



©武藤章

**田村 響** (ピアノ) Hibiki Tamura

2008、2014年度奨学生

2007年ロン＝ティボー国際コンクールにおいて弱冠20歳で第1位に輝き、一躍世界に注目される。2009年ビシュコフ指揮ケルン放送交響楽団の定期演奏会にデビューし、日本各地のオーケストラと共演。室内楽にも力を入れており、神尾真由子、宮田大、三浦文彰の各氏等をはじめ、同世代のアーティストとも多数共演する。1986年愛知県安城市生まれ。18歳でザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学に留学。2015年大阪音楽大学大学院修了。深谷直仁、清水皇樹、クラウディオ・ソアレス等の各氏に師事。受賞歴は、2015年文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞、2017年京都市芸術新人賞等がある。現在、京都市立芸術大学准教授。

C



©尾形正茂

**玉井 菜採** (ヴァイオリン) Natsumi Tamai

1998、1999年度奨学生

桐朋学園大学卒業後、アムステルダム・スヴェーリンク音楽院、ミュンヘン音楽大学にて研鑽を積む。プラハの春国際コンクール、J.S. バッハ国際コンクール、エリザベート王妃国際コンクール、シベリウス国際コンクール等数々のコンクールに入賞。ソロ・室内楽の分野で活発な演奏活動を行っている。紀尾井ホール室内管弦楽団コンサートマスター、アンサンブル of トウキョウのソロヴァイオリニスト、東京クライスアンサンブルのメンバー。東京藝術大学教授。使用楽器は東京藝術大学所蔵のA. Stradivarius "Ex-Park" (1717作)。

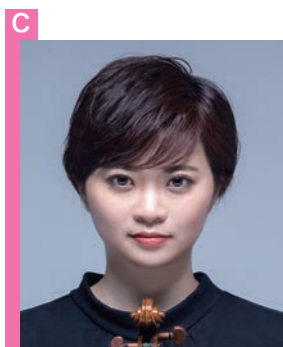
[ローム ミュージック フレンズ]

●奨学生 ●在外研究生(ローム ミュージック ファンデーション 音楽在外研究生) ●セミナー生(ローム ミュージック ファンデーション音楽セミナーまたはローム ミュージック セミナー受講生)  
●学生フェスティバル出演者(京都・国際音楽学生フェスティバル出演者) ●小澤征爾音楽塾 塾生

A リレー コンサート A I オーケストラ コンサート I B リレー コンサート B C リレー コンサート C II オーケストラ コンサート II



# Profile

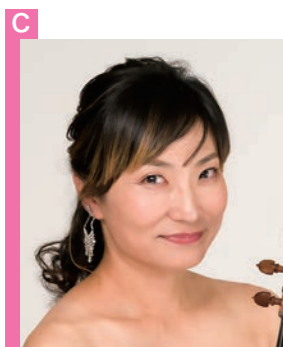


©Junichiro Matsuo

## 城戸 かれん (ヴァイオリン) Karen Kido

2018、2019年度奨学生

ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール第1位、カール・ニールセン国際コンクール第4位、日本音楽コンクール第2位等数々のコンクールで受賞し、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、バーデン＝バーデン・フィルハーモニー管弦楽団等と共演。東京藝術大学を首席で卒業し、同大学院修士課程修了。これまでに、原田幸一郎、漆原朝子、堀正文の各氏に師事。徳永二男、レジス・パスキエ、ドン＝スク・カン、川崎雅夫の各氏より薫陶を受ける。現在はソロや室内楽、オーケストラへの客演の他、自らコンサートを企画する等精力的な活動を展開。宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭、CHANEL PYGMALION DAYS等への出演を重ねる。ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。使用楽器は個人貸与によるピエトロ・グアルネリ1698製。



©世利之

## 須田 祥子 (ヴィオラ) Sachiko Suda

2000、2001年小澤征爾音楽塾 塾生

桐朋学園大学を首席で卒業。室谷高廣、岡田伸夫の各氏に師事。第23回ヴィットリオ・グイ国際コンクールを始め多数のコンクールで第1位優勝。2015年「題名のない音楽会」及び2016年「ららら♪クラシック」のヴィオラ特集、同年「題名のない音楽会」の弦楽四重奏特集、2021年「オーケストラの黒幕楽器を知る休日」に出演。2016年1月には「報道ステーション」で白川氷柱群の前からヴィオラだけのソロ演奏が生中継された。また、2018年NHK-FM「きらクラ」の水戸での公開収録、2020年には「今日は一日“ビオラ”三昧」にゲスト出演。現在、東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者、日本センチュリー交響楽団首席客演奏者、ピアノ演奏集団「SDA48」主宰。洗足学園音楽大学非常勤講師。CD「ビオラは歌う」シリーズ、「びおらぞんまい」「VIOLA INFINITY」をリリース。レッシュ4スタンス理論マスター級トレーナー。



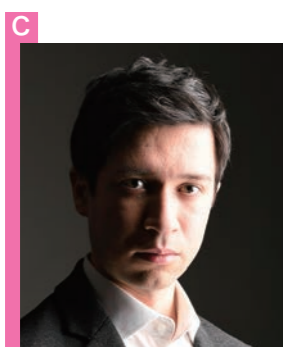
©塩澤秀樹

## 中木 健二 (チェロ) Kenji Nakagi

2006、2007、2008、2009年度奨学生

2003年小澤征爾音楽塾 塾生

東京藝術大学を経て2003年渡仏、パリ国立高等音楽院、ベルン芸術大学の両校を首席で卒業。2005年ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位等受賞多数。ソリストとして活躍する他、室内楽にも情熱を注ぎ、アッカルド、ジュランナ、メネセス、チュマチェンコ、イヴァルディ、ル・サーージュを含むアーティストと共演。キングレコードより「J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲全曲」他のCDをリリース。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京藝術大学音楽学部准教授。第11回名古屋音楽ペンクラブ賞受賞。使用楽器は1700年製ヨーゼフ・グアルネリ(NPO法人イエロー・エンジェルより貸与)。Thomastik Infeld社契約アーティスト。



©井村重人

## 浜野 与志男 (ピアノ) Yoshio Hamano

2012、2013年度奨学生

第80回日本音楽コンクール第1位をはじめ受賞多数。これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、セントラル愛知交響楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団等と共演。2019年、デビュー・アルバム「ステート オヴ マインド」をトリトン・レーベルよりリリース、好評を得ている。東京藝術大学を経て英国王立音楽大学大学院修士号及びアーティスト・ディプロマを取得。その後モスクワ音楽院及びドイツ・ライプツィヒにて研鑽を積む。東京音楽大学専任講師。国内外で公開レッスン開催やコンクール審査にも積極的に携わる。



©Ayustet

## 阪田 知樹 (ピアノ) Tomoki Sakata

2019、2020年度奨学生

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠19歳で最年少入賞。キッセンゲン国際ピアノオリンピックでは日本人初となる第1位。チェコ国立交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団、NHK交響楽団等と共演。世界20カ国以上で演奏を重ね、国際音楽祭への出演も多い。CDは2枚リリース。音楽之友社より阪田知樹ピアノ編曲集「ヴォカリーズ」と「夢のあとに」を出版。テレビ等のメディア出演も多い。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、第32回出光音楽賞、2023年神奈川文化賞未来賞受賞。

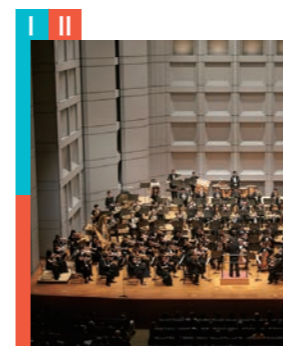


©Lasp Inc.

## 菊本 和昭 (トランペット) Kazuaki Kikumoto

2008年度奨学生

京都市立芸術大学及び同大学院修了。フライブルク音楽大学、カールスルーエ音楽大学にて学ぶ。2002年日本管打楽器コンクール第1位、2003年日本音楽コンクール第1位及び増沢賞、E.ナカミチ賞、聴衆賞受賞。2006年、済州プラスチックコンペティション第2位(1位無し)。2008年、E.スミス国際トランペットソロコンペティション第2位。2004年、京都市交響楽団に入団。2012年よりNHK交響楽団首席トランペット奏者。これまでにトランペットを早坂宏明、有馬純昭、A.プログR.フリードリッヒ、Dr.E.H.タール各氏に、室内楽を具信一氏に師事。大阪音楽大学客員教授。



©上野隆文

## 東京フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽) Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立。日本のオーケストラとして最古の歴史をもち、メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ、自主公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。また、海外公演も積極的にを行い、国内外から高い注目を集めている。1989年からBunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

公式ウェブサイト <https://www.tpo.or.jp/>



## メインホール・サウスホール全公演有料配信のお知らせ

クラシック専門ストーリーミングサービス カーテンコールにて、当日会場での各公演開催と同時にライブ配信および、期間限定のアーカイブ配信も実施します。

### オンラインコンサート視聴方法

「カーテンコール」で検索、または二次元コードから「カーテンコール」TOPページにアクセスし、会員登録後、該当する公演のオンラインコンサートチケットをご購入ください。

※その他購入方法、視聴方法、視聴環境の詳細については「カーテンコール」のサイト内にてご確認ください。

アーカイブ配信期間：2024年4月22日(月) 15:00～2024年4月28日(日) 23:59



[ロームミュージックフレンズ]

●奨学生 ●在外研究生(ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生) ●セミナー生(ロームミュージックファンデーション音楽セミナーまたはロームミュージックセミナー受講生) ●学生フェスティバル出演者(京都・国際音楽学生フェスティバル出演者) ●小澤征爾音楽塾 塾生

A リレー コンサート A I オーケストラ コンサート I B リレー コンサート B C リレー コンサート C II オーケストラ コンサート II



## ローム・スクエアコンサート

4/20  
[土]

### 13:15開演(13:45頃終演予定) 京都市立近衛中学校 吹奏楽部

皆さんこんにちは。近衛中学校吹奏楽部です。北に吉田神社、京都大学、南に聖護院、東に大文字山、西に鴨川があります。地域に根ざした音楽と心のハーモニーを大切に毎日楽しく活動しています。本日も元気よく頑張ります。よろしくお祈りします。  
【令和5年度活動内容】京都府吹奏楽コンクール金賞、京都府マーチングコンテスト金賞・京都府代表、京都府アンサンブルコンテスト金賞、京都府ソロコンテスト金賞・銀賞受賞者複数名

Zip-a-Dee-Doo-Dah  
Trooper Salute  
マツケンサンバII ほか



### 15:30開演(16:00頃終演予定) 大阪桐蔭高等学校 吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクールで6回の金賞を含む14回出場、全日本マーチングコンテストで4回の金賞を含む5回出場、日本管楽合奏コンテストで最優秀グランプリ3回受賞。甲子園では通算9回の優勝応援。海外では、ウィーン国立歌劇場公演、カーネギー・ホールでの公演を経験。コロナ禍ではリモート演奏をYouTubeで開始、15万人が登録するチャンネルで200本以上の動画を配信中。

ラ・ラ・ランド  
ラ・マンチャの男  
サウンド・オブ・ミュージック ほか



4/21  
[日]

### 12:00開演(12:30頃終演予定) 京都橘高等学校 吹奏楽部

1961年創部。「元気いっぱい、笑顔いっぱい、夢いっぱい」をテーマに掲げる。全日本マーチングコンテスト18回出場。これまでにアメリカローズパレードに2回出演し、2025年には3回目の出場が決まっている。2022年、海外団体としては初となる台湾双十国慶節へ招待され、翌年には台北、高雄両市に招待されパレードや演奏会を行い、述べ12万人の観客を動員した。年間の様々なイベント、演奏会への出演は90回を超える。

September  
Uptown Funk ほか



### 14:45開演(15:15頃終演予定) 立命館高等学校 吹奏楽部

立命館高等学校吹奏楽部です。私たちは毎年3月に行われる定期演奏会をはじめ、全日本吹奏楽コンクールや本校ホールに地域の学校を招いてお互いの演奏を聴き合う「Joyfulコンサート」、学校行事での演奏依頼、地域行事での演奏依頼など、より多くの人に私たちの演奏を聴いていただけるような機会を設けております。私たちは「心から心へ届ける音楽を」をモットーに、日々練習に励んでいます。ぜひ最後まで楽しんでお聴きください!

ウェストサイド・ストーリー・セレクション  
Reunion and Finale ほか



〈無料公演〉※天候によっては中止の場合がございます。※都合により出演者、曲目が変更になる場合がございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは  
音楽文化の普及と発展のためにさまざまな活動をしています。

## 音楽文化の発展

事業の中で関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は、1991年設立時よりこれまでで4,865人になります。

奨学生	540人	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。
音楽在外研究生	64人	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。
音楽セミナー受講生	333人	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。
ローム ミュージック セミナー受講生	11人	世界で活躍するローム ミュージック フレンズによる音楽家育成セミナー。
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	2,646人	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。
小澤征爾音楽塾 塾生	1,530人	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。

※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しません。(2024年4月時点)

### 奨学援助

認定式・報告会を実施し、給付中また給付後すぐの奨学生によるスカラシップ コンサートも開催しています。



©佐々木卓男

### ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー



### ローム ミュージック セミナー



©佐々木卓男

### 小澤征爾音楽塾

若手音楽家の育成を目的とした小澤征爾音楽塾の各種公演を共催しています。また、小学生を対象とした「子どものためのオペラ」を共催しています。



©大塚道治

### 京都・国際音楽学生フェスティバル



©佐々木卓男

## 音楽文化の普及

### 新国立劇場 高校生のための オペラ鑑賞教室への助成



©寺司正彦、提供 新国立劇場

### 日本フィル 夏休みコンサートへの助成



### 映像配信コンサート (Kyoto×Classics)

京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けしています。



各種映像はこちらから

